

# 保育キャリア基礎演習の授業に参加して

保育児童学部 准教授  
教育学修士 萩原邦昭

令和3年2月12日（金）の1時限に行われた保育キャリア基礎演習（数的理解）の授業をリモートにて参加できたことは、大変貴重な機会でした。指導者の土屋修先生の進め方も的確で、しかも中島総長が随所に指導を入れていたことも「なるほど」と納得でき、参観は貴重な時間でした。90分が短く感じました。

ここより学んだことを4点挙げたいと思います。

1点目は、テキストを画面共有し、そこに担当が説明として、黒板のように使用していたことが新鮮でした。また本学は基本的に文系なので、理系が苦手な学生が多いこともあり、具体例をあげ、また具体物（電車の写真、電車の絵等）を取り入れて非常に丁寧に説明をしていたことは大いに参考になった点でした。

2点目は、はじめにテキストの設問の解き方と解答を考えたあと、いくつかの類題を繰り返し導入したところです。このように数字や場面を変えて繰り返す手法は、数学では非常に有効であろう、と実感しました。また、もちろんここでは学生との双方向のやり取りもなされ、理解するまで教えていました。その際中島総長から、全員が理解しているかの助言が適宜されたことは私自身も陥りがちのところだったので今後の課題としたい、とその都度思いました。

3点目は、学生からの質問は随時、チャットで行い、途中でであってもその質問に答えていたところです。学生の「わかった」は、疑問の解決と結びついています。こうしたオープンでスピーディな疑問解決は今後私自身も是非授業に取り入れたいと思いました。

4点目は、確認テストのための暗記の時間を十分に確保し、税員が100点を取れたことはこの方法的確さを表していると思いました。またこのような成果を生むためには1コマでの問題数を欲張らずに精選し、じっくり学生に取り組ませることが肝要だと感じました。どうしても担当になると多くの問題を限られた時間の中でこなそうと躍起になりがちですが、大事なことはむしろ「できた」という達成感が大事であり、このような気持ちが、次の意欲を生み出す力になるのだと思いました。

以上、今回このような参観の機会を得て、多くのことを学ばせて頂きました。この研修会の趣旨を生かすのは、今後私の授業にどれほど多く取り入れられるかにかかっていると考えています。中島総長の「内容を理解することが大事」を第一に掲げ、今後も授業の展開を考えていきたいと、改めて自覚させられた時間でした。

このような時間の提供をありがとうございました。